

每週自星期日發行
定價 一、少年三十六圓
二、少年三十六圓
廣告 一行十圓
場所指定五圓增
郵寄縣市街角六七
○印及郵到印刷所
鐵島縣南大町八番地
經銷發行印刷人木村安次
主筆 小 林 清
(位萬地菊，長扇支)
(雄保谷熊，長扇支)

あり、ヤマの經營者並に勞
働者の評判は一般に悪い
吾人は此の際多年の實驗者

よつて行はれた
▼民主的に組織された政府
は國民全体に奉仕するこ
とに心掛けねばならぬ
突発的的過程を避けて完
全な自治の力を國民のな
かに植えつけられぬこと
が必要である
▼個人の自由の範圍を擴大
維持しようとする闘争の
中にこそ自由な労働運動

1997

平署 同	宮澤 庸	高田署長へ
白河署 同	傅 平署へ	
浪江警部補	鈴木健之助	小名濱警部
小名濱警部派出所警部補	柴田 義房	浪江署へ
猪苗代署警部補	菅家 徳壽	平署湯本へ

平市五丁目

久益屋商店

計會諸橋三元郎

電話九〇九番

ある、労働の基準量を設ける、或程度嚴格な實施により他人の勞力に寄生する不正労働者を驅逐し勤勉な勤勞者の勞力にむかひなければならぬ、經營者と労働組合が合意の止で基準労働量を決定するは決して勤勞者を不當に束縛するものでない、優良勤勞者を保護するものであり、經濟再建産業復興への必須要件である。

營業品目

炭・棒、トイラー
品工、藥種、名

所業工料燃平

松 秀 邊 野 山

地番二町月正市平

番九一九話電

平署 同	宮澤 庸	高田署長へ
白河署 同	浪江署 同	植田署長へ
岩下 傳	平署へ	
浪江警部補	鈴木龍之助	小名濱警部
派出所へ		
小名濱警部	柴田 義房	浪江署へ
猪苗代署警部補		
管家 德壽	平署湯本へ	

米國の反労働立法が日本にも影響か

キレン氏は記者團の質問に答へて次の点を明かにした。一、私はこの機会に日本の組合運動に對する總司令部労働課の方針は占領開始以來現在まで何等變化していないといふことを強調したい。労働課は終始一貫自由にして強力な組合運動の發達と日本國民の生活水準向上に援助を與ふる方針を堅持してゐるのである。日本の労働組合は一年前に比べれば組合運動の目的、使命責任などに對するはるか古來田植祭りは日本の最も厳かなる行事の一つであるが、あつても一株拜む意なく青年は青年なればなり、小澤大人曰く、青年を愛せざれば國亡び、青年國を愛せざれば國亡ぶと、眞に然りと何ぞ、理論闘争に誤つてはならぬからである。大宇宙針はありやと人間はと吾は答へん神州不滅と國を築くこと宏遠に、徳を樹つることを深厚なればなり、馬鹿につける樂なし馬鹿を笑ふことも貧乏笑ふなである。馬鹿は國を亡ぼし貧乏は國を興せばなり、貧乏で亡びし國なし、信なくして國亡ぶ。興亡史を學せや、學は一刻を争へばなり。

勤勞と人生

勤勞う生活、一口に言つてしまふはそれだが、言ふは易く行ふは難い、如何なる説教も最早文化の發達した今日の文明では所謂そんな事誰も知つてゐる。威張つてゐることまでに發達してゐる。敗戦の起因を懺悔せねばならぬ迄に偉つてゐるを如何にかせんと獨り嘆じ泣き居る、余なればなりと獨

田植と祭典

り愚痴をこぼし居るがためである、威張るな威張るは愚か學なきぞ學は一刻争へばなり、學を知れ學は時なり、時は文字一字千金、二千の學ならぬ物はなきなり事徳先生、リッコン大統領を始めてとしてトルストイの末路、大楠公、乃木院長、吉田松陰先生、尾崎獨堂先生に見ることが出来るから大先生方は吾人に教ふ、吾

公選哲學

六、戦、吉田庄太郎
青年老ゆ、オオジモニス
哲人青年君知や、青年老
ゆ、年齢は青年にあらず意
氣青年なればなり、意氣天
を衝く五十六十歳垂れ小僧
男かきり眞八十と誰かぞ
言つたが、年齢青年は老ゆ
刻を争へばなり。

謹告

今浪江町下町四番地大浦
民藏氏を支局長として石井
齊氏を總務の事務局長及申込
所として將來愛讀者各位の
御援助を御願ひ益々浪江町
各位のため奮闘努力して見
たいと思ひます、就きまし
ては各位の御熱心なる御投
書を希望いたす次第であり
ます
浪江町鳥喰一番地
浪江支局事務局長

石井 齊

植田町驛前(北台町)

支局長 熊谷 保雄

四倉町驛通

支局長 菊地 高位

勤勞タイム本社

土木

建築

材拔

組

松

村田龍郡葉双

吉義松成

地番四十二本

正憲松久

吉要田

女流相撲團

場所 平市三丁目廣場

日時 六月二十二日

至二十七日

神佛葬具

造花一式

博盛堂

松本 幸

平市才樋小路一

電話五三五(呼)

石川洋服店

平市銀座通り

電話九五八番

平市大町

永山洗濯舗

舖主 永山眞彦

電話六〇六番